

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	愛知県	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	愛知県文化遺産活用事業		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>我が国の中央に位置する本県は、モノづくりを中心とした魅力ある観光資源を有するとともに豊かな自然と優れた文化遺産が多数存在している。こうした文化遺産を活用し、本県の魅力を向上させるためにも、県民一人ひとりが文化遺産に対する理解を深めるとともに、地域の住民が誇りと愛着を持つことのできる、活力に満ちた地域社会の実現が大切である。</p> <p>こうした状況を踏まえ、次の事業を実施する。</p> <p>(1) あいちヘリテージマネージャー事業 (2) 愛知県国登録有形文化財公開活用事業 (3) あいち山車文化活性化事業 (4) 日本の伝統文化をつなぐ事業</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、愛知県が全体計画の企画、調整、事業の指導等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な担当課：教育委員会生涯学習課文化財保護室 ・役 割：文化財の取扱等及び「5実施計画の概要」における(1)(2)(3)(4)に関する指導・調整等 <p>また、各事業については、次の団体が実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいちヘリテージマネージャー養成講座実行委員会（委員長 廣瀬高保） （「5 実施計画の概要」における(1)の事業を実施） ・愛知県国登録有形文化財公開活用実行委員会（委員長 佐地秀明） （「5 実施計画の概要」における(2)の事業を実施） ・あいち山車まつり日本一協議会（会長 大村秀章愛知県知事） （「5 実施計画の概要」における(3)の事業を実施） ・日本の伝統文化をつなぐ実行委員会（実行委員長 大西文一郎） （「5 実施計画の概要」における(4)の事業を実施） 			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 182,777 千円	平成29年度申請額： 20,247 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>【あいちヘリテージマネージャー事業】</p> <p>1. あいちヘリテージマネージャー育成事業</p> <p>(1) 建築士を対象に養成講座を実施し、その修了者の内希望する者は「あいちヘリテージ協議会」に登録し、協議会の会員として情報交流を行い、文化財建造物の保存と活用に向けた活動を行っている。登録者についても、継続的にレベルアップ講習を実施することにより、実務能力の向上を図り、より実践的な「協議会」の会員として情報交流と、歴史的建造物の保存・活用に向けた活動ができるようになる。</p> <p>(2) 愛知ヘリテージマネージャーの役割としては、</p> <p>① 愛知県全域で未だ登録されていない文化財建造物を発見し、国の登録有形文化財建造物としての指定を目指すこと、更にそのための基礎資料作成に協力する。</p> <p>② 県内の文化財建造物(県指定・国指定)について、以下について所有者を支援する。 ア 維持管理 イ 修理 ウ 活用 エ 保存及び活用における計画づくり</p> <p>(3) こうして養成された人材の活躍により、県内の文化財建造物が新たに発見され、文化財としての保存が進み、有効活用を図ることができる。さらに、こうした登録文化財建造物を活かしたまちづくりに寄与することができる。</p> <p>2. 地域の歴史的建造物を守る防災意識向上事業</p> <p>(1) 本事業により、県内の歴史的建造物の現況と所在位置が把握でき、災害時の応急危険度判定時等に活用できる。また、歴史的建造物が多く残る町並みの成立の背景と現状及び歴史的建造物の災害や維持管理の状況が把握され、その調査結果を発表し、必要な防災についての講演会を実施することにより、地域住民における文化財に対する防災意識が向上し、歴史的建造物を含めた防災のシステム作りに発展させ、地域の活動を活性化する手がかりとなることが期待できる。</p> <p>更に、「歴史的建造物保存活用の手引き」を活用して、歴史的建造物の保存活用のための基礎資料を作成することにより、歴史的建造物の効果的な保存活用ができる。</p> <p>又、歴史的建造物の所有者に対する意識啓発活動を行うことにより、所有者に対し所有している建物の地域の中における必要性や地域との連携を意識させ、新たなコミュニティづくりや文化財の有効な保存・活用につながる。</p> <p>県内の歴史的建造物の現況及び所在を把握することにより、激甚災害時の保護・保存の活動につなげることができる。</p> <p>また、この活動の際、上述のヘリテージマネージャーの活躍が期待できる。</p>			

【愛知県国登録有形文化財公開活用事業】

1. 文化財ガイド育成事業
文化財ガイドに関するノウハウが蓄積されるとともに、文化財の公開活用に対する意識が高まり、特別公開などにおける建物解説やボランティアスタッフとしての参加が期待できる。さらに地域別に開催することで、地域での専門家のネットワーク形成につながる。こうした地域の専門家集団の働きかけにより、新たな登録文化財等の公開活用が進むことが期待できる。
2. 登録文化財魅力体験「特別公開事業」
歴史的建造物に関心を持っている多くの人に登録文化財を見ってもらうことにより、所有者がその価値・魅力を再認識する機会となり、所有者自身による公開活用につながることを期待できる。また、多くの県民に登録文化財の魅力を経験する機会を提供することによって、それらの価値を認識し、保存継承の支援者となることを期待できる。
3. 登録文化財保存活用シンポジウム
議論を通じて、所有者、専門家、県民がお互いの役割を認識する場となり、互いの連携が期待できる。多様な講師を県外から招くことにより、県外で活用する団体とのネットワークを形成する機会ともなる。広域的な連携を図ることは、近い将来必ず発生するといわれている大地震による文化財建造物の被害に対し、修復の支援体制を構築する上でも重要である。

【あいち山車文化活性化事業】

愛知の山車文化に関するホームページを制作・公開することで、国内外の方々や幅広い年齢層の方々に愛知の山車まつりの魅力に興味・関心を深めていくことができる。また、愛知の山車文化に関する公開講座（あいち山車文化魅力発見講座）を実施することで、愛知の山車まつりの理解者・応援者を増やすことができる。さらに、講座受講者を対象に「あいち山車まつりボランティア」を募り、ホームページへの投稿や今後の協議会活動の応援者となっていくことができる。

こうした事業によって、国内外から県内山車まつり及び関連行事への集客を誘引し、観光振興を促進するとともに、応援者を活用して山車まつりを活性化することで、地域振興を図ることができる。

【日本の伝統文化をつなぐ事業】

地域の街道文化一名所復活と普及啓発—

東西からの中間地点として、江戸時代のかつての街道の賑わいを再度見直されることを想定する。5ヵ年で5つの地域（知立まつり、尾張津島の天王祭、犬山祭、須成祭、亀崎潮干祭）で実施する予定だが、ユネスコ無形文化遺産登録による注目度アップと本事業により、上記地域の名所が幅広く注目を浴びることが予想される。

知立まつりにおいて山車文楽とからくりを奉納する本祭は1年おきのため、本祭の開催年度である30年度、32年度、34年度は10%程度の増加を見込む。29年度を20,000人として、30年度は22,000人、32年度は23,000人、34年度には25,000人を見込む。

本年度は、ユネスコ無形文化遺産登録と本事業との相乗効果で、知立の名所が幅広く注目を集めると考えられ、名古屋鉄道知立駅の乗降者数の増加を見込む。

28年度は11,420,000人。33年度には11,511,360人に増加を見込む。また、知立市歴史民俗資料館の年間入館者数は、27年度までの過去5年間の平均伸び率3.6%を参考に毎年度伸び率が3.6%と想定する。29年度は29,500人、30年度は30,000人、34年度には33,500人を見込む。

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）

事業概要：	-
事業概要：	-
事業概要：	-

11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

特になし

12 担当部局

地方公共団体 担当部局課	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室
-----------------	---------------------

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分1:	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分1:	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標1:	あいちヘリテージマネージャーへ登録して活動する人数			関連事業:	①②	
目標値1:	平成 28 年度 127 名			⇒	平成 33 年度 247 名	
設定根拠1:	あいちヘリテージマネージャー養成講座を修了し活動する意欲のある人を登録する。毎年30人の登録を目指す。					
進捗状況1:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
名	名	名	名	名	名	
目標区分2:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分2:	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標2:	愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会facebookへの「いいね」の数			関連事業:	③④⑤	
目標値2:	平成 28 年度 400 件			⇒	平成 33 年度 2,000 件	
設定根拠2:	広く一般の方知ってもらい、訪れるきっかけをつくる手段としてのSNSの活用。各年300件程度の増加を見込んだ。					
進捗状況2:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
件	件	件	件	件	件	
目標区分3:	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分3:	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標3:	あいち山車まつり日本一協議会保存団体数			関連事業:	⑥⑦	
目標値3:	平成 28 年度 101 団体			⇒	平成 33 年度 151 団体	
設定根拠3:	協議会の会員数及び保存団体数の増加により、県内の山車文化の魅力を発信する機会が増えるとともに、会員同士のネットワークが強固なものになると考えられる。毎年10団体の新規加入を見込む。					
進捗状況3:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
団体	団体	団体	団体	団体	団体	
目標区分4:	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分4:	文化遺産が所在する最寄駅の乗降者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標4:	名古屋鉄道知立駅の乗降者数			関連事業:	⑧	
目標値4:	平成 28 年度 11,420,000 名			⇒	平成 33 年度 11,511,360 名	
設定根拠4:	ユネスコ無形文化遺産登録と本事業との相乗効果により知立の名所が幅広く注目を集めると考えられる。各年約18,000人の乗降者数増加を見込む。					
進捗状況4:	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
名	名	名	名	名	名	

事業⑦：	あいち山車文化魅力発見講座				実施団体：	あいち山車まつり日本一協議会	
事業区分：	普及啓発				事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度	
事業概要：	愛知の山車まつりに関する公開講座を実施する 受講対象 愛知の山車文化に興味・関心のある方40名程度 講座数5回 内容（山車まつり概論、尾張・三河の山車まつり、現地見学）						
評価指標区分：	・その他				(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	あいち山車まつりボランティアの登録者数						
目標値：	平成 28 年度		0 名		⇒ 平成 33 年度		100 名
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
名	名	名	名	名	名		
事業⑧：	地域の街道文化一名所復活と普及啓発				実施団体：	日本の伝統文化をつなぐ実行委員会	
事業区分：	普及啓発				事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度	
事業概要：	愛知が誇る山車まつりより、ユネスコ無形文化遺産の登録を受けた五つの祭り・山・鉦・屋台行事を（各年度一つずつ）紹介するとともに、日本の歴史文化と地域の融合、活性を図り、文化遺産の普及啓発をする。						
評価指標区分：	・その他				(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	地域の駅の乗降者数。各年ごとに取り上げる事業の地域の駅の乗降者数。 平成29年度は名古屋鉄道知立駅（目標値は本事業により知立駅の5年間の目標）						
目標値：	平成 28 年度		11,420,000 名		⇒ 平成 33 年度		11,511,360 名
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度		
名	名	名	名	名	名		